

## 日本脳科学関連学会連合第4回評議員会 議事要録

日時：平成27年5月9日（土）13：00-14：50

場所：東京医科歯科大学湯島キャンパス M&D タワー2階 共用講義室1

出席者：(名簿順、敬称略)

日本解剖学会：岡部繁男、仲嶋 一範

日本自律神経学会：荒木信夫

日本神経回路学会：酒井宏、川人光男

日本神経化学会：木山博資、岡野栄之、小泉修一

日本神経科学学会：平井宏和、柚崎通介

日本神経学会：水澤英洋

日本神経精神薬理学会：石郷岡純、池田和隆、山脇成人

日本神経内分泌学会：上田陽一

日本神経病理学会：吉田真理、村山繁雄

日本心理学会：佐藤隆夫、梅田聡、坂上雅道

日本睡眠学会：本間研一

日本生物学的精神医学会：西川徹

日本生理学会：栗原敏、伊佐正、加藤總夫

日本認知症学会：森啓、岩坪威

日本ニューロリハビリテーション学会：近藤和泉

日本リハビリテーション医学会：水間正澄、石合純夫、里宇明元

日本臨床神経生理学学会：園生雅弘、正門由久

日本臨床精神神経薬理学会：鈴木雄太郎

欠席者：(名簿順、敬称略)

日本解剖学会：藤本豊士

日本小児神経学会：高橋孝雄（委任状）、杉江秀夫（委任状）、水口雅（委任状）

日本自律神経学会：黒岩義之（委任状）、黒澤美枝子（委任状）

日本神経回路学会：小池康晴（委任状）

日本神経科学学会：田中啓治（委任状）、

日本神経学会：高橋良輔、祖父江元

日本神経内分泌学会：島津章（委任状）、井樋慶一（委任状）

日本神経病理学会：高橋均（委任状）

日本神経免疫学会：吉良潤一（委任状）、桑原聡（委任状）、錫村明生（委任状）

日本睡眠学会：伊藤洋（委任状）、三島和夫（委任状）

日本精神神経学会：武田雅俊（委任状）、神庭重信（委任状）、齋藤利和（委任状）

日本生物学的精神医学会：大森哲郎（委任状）、加藤忠史（委任状）  
日本認知症学会：秋山治彦（委任状）  
日本ニューロリハビリテーション学会：鈴木則宏（委任状）、伊達勲（委任状）  
日本脳神経外科学会：嘉山孝正（委任状）、新井一（委任状）、斉藤延人（委任状）  
日本臨床神経生理学会：飛松省三（委任状）  
日本臨床精神神経薬理学会：近藤毅（委任状）、大谷浩一（委任状）

陪席：松田哲也（代表補佐）

事務局：秋葉、鈴木、星屋、馬塚

配布資料：

- 資料 1 第 3 回評議員会議事録
- 資料 2 連合代表からの活動報告
- 資料 3 脳科学将来構想委員会からの活動報告
- 資料 4 脳科学研究をめぐる動向について
- 資料 5 広報委員会からの活動報告
- 資料 6 日本学術会議 3 分科会合同シンポジウムの共催について
- 資料 7 2014 年監査及び決算について
- 資料 8 2015 年予算案について
- 資料 9 脳科学辞典のご案内
- 参考 1 評議員名簿

議事：

評議員、事務局の自己紹介

#### 1. 前回議事録の確認

特段の質疑なく確認された。

#### 2. 連合代表からの活動報告

水澤連合代表より、資料 2 に基づき以下の通り報告があった。

- ・ 2014 年第 1 回、2 回及び 2015 年第 1 回の運営委員会の内容報告
- ・ 拡大三役会の内容報告

#### 3. 脳科学将来構想委員会からの活動報告

伊佐将来構想委員会委員長より委員会開催状況及び活動内容について、資料 3 に基づき以下の通り報告があった。

- ・ 1 号委員、2 号委員、3 号委員の紹介

- ・脳科学将来構想委員会実施の報告
- ・文部科学省 脳科学委員会で議論された内容の紹介
- ・第 2 期の脳科学委員会に向けた動向紹介
- ・AMED 発足による体制の変化や今後の影響について
- ・学会会議のマスタープランに関する議論の紹介

#### 4. 脳科学研究をめぐる動向について

伊佐将来構想委員会委員長より、脳科学研究をめぐる動向について、資料 4 に基づき報告があった。

##### <主な質疑応答・コメント>

○川人光男先生

2014 年 4 月の将来構想委員会資料にも出ているが、日本学会会議の大型研究計画マスタープランに盛り込んでもらうために、昨年、脳科連から「こころの健康社会をつくる多次元プロジェクト」を策定し、学会会議に提出した。日本学会会議では好意的に受け入れられたが予算措置はされなかった。今後 2017 年に向けてまた研究計画の公募があるということなので、今後も脳科連として検討を進めていくべきではないか。

○伊佐先生

おっしゃる通り、脳科連としてマスタープランを出すということは重要。マスタープランに採択されたからすぐに予算につながるわけではないが、天文学や加速器に比べると、生物・医療系はなかなか難しい。近々学会会議があり、次回のアウトラインが出ると聞いている。2017 年に向けた研究計画の公募は来春に締切なので、学会会議の各部会や将来構想委員会でも議論を深めていく。

○水澤先生

また前回提出した計画についても、予算化されていないというよりは、革新脳プロジェクトに多くのものが引き継がれていると認識している。我々が努力したことは少なからず報われている。

○岡部先生

学会会議のマスタープランに関しては、初回はたまたま FIRST 等の大型予算がついた。今回のマスタープランは物理系含め、新規予算要求とはリンクしていない。それでもやはり案は出しておく必要がある。マスタープランを作るときに多くの方から意見を伺い、部分部分では実現されており、そういった副次的な効果も期待できる。第 2 期の脳科学委員会でも議論が進んでいく。重要なのは幅広い脳科学全体の枠組みで重点課題を設定し、そこに向けて戦略目標をどう立てるか、ということ。脳科連としては、広い学会共通認識として重要な課題の絞り込みをしていただきたい。

○水澤先生

第 2 期の脳科学委員会は樋口先生が主査、岡部先生が副主査であり、伊佐先生、水澤も入っている。ここにいるメンバーも入っているなので、緊密な関係で進めて行く。

○山脇先生

日本学術会議には脳科学に関連する 3 つの分科会（神経科学、脳とこころ、脳と意識）があり、ここでも議論が進んでいる。日本学術会議、脳科学委員会、脳科連と、それぞれどういった棲み分けなのかよくわからない。それぞれの立場から違った意見が出ている方がいいのではないか。あちこちから同じ意見が出ているとかえってインパクトはないのではないかと懸念する。マスタープランは脳科連に委託されたものなのか、それとも学術会議自身が作るものなのか。そのあたりの役割分担と戦略を検討していただきたい。

○伊佐先生

学術会議の 3 分科会については、ここにいらっしゃる先生方も入っておられるので、役割分担についてはまずはその間でお話してほしい。また学術会議は何かを代表してということではなく、比較的、個人として参画しているものと認識している。脳科連は、立ち位置からするとボトムアップの形で、脳科連の方が広く学会のサポートを得ている形。

○岡部先生

一番わかりやすいのは脳科学委員会（トップダウン形）で、文科省が意見を聞きたい人を呼んで聞く形。学術会議はもともとは学会の代表という形だったが、現在は学会とは独立している。ある程度日本の科学者を代表する立場であり、学会の利益代表ではない。脳科連はボトムアップの団体。学会の利益を中心に考えて発言してよい。学術会議のマスタープランについては、少なくとも前は個人名で提案を出していた。もちろん、研究者コミュニティがサポートしないと実施できないので、学会レベルでの合意は重視されていた。今回も主として学会が案を練るべきと考える。学術会議のメンバーは学会から出てきた案をフィードバックして適切な内容であるということを学術会議として発信するということになると思う。

○伊佐先生

案を作成する主体がどこにあるか、ということを確認したかった。学会が案を練るべきということであれば脳科連で作業部会を構成して策定していきたい。

○里宇先生

脳プロなど文科省系の課題と同時に経産省のプロジェクトにも採択されて脳科学研究を行っている。AMED の中では脳科学という切り口では産業界とのつながりがあまりしっかり考えられていない。脳科学全体としては企業との関係も重要なので、経産省（所管の事業）も視野に入れて行かなければいけないのではないかと。

○松田先生

AMED 設立の際、脳科学に関しては経産省は外れるという判断があった。ただし正確には、AMED の「脳とこころの健康大国実現プロジェクト」に経産省が関わっていないというべきかもしれない。BMI につ

いては「脳とこころの健康課」の所管事項には入っていないが、別の課の所管に入っているものと思われる。また、健康医療推進戦略本部が内閣府内にあり、AMEDはこの戦略本部の下に位置する。AMEDからの案を戦略本部で精査するというプロセスがあり、甘利大臣がこの戦略本部を統括している。

#### 5. 広報委員会からの活動報告

飛松広報委員長の代理として上田広報委員より、広報委員会の活動内容について、資料 5 に基づき以下の通り報告があった。

- ・ 広報委員の紹介
- ・ 広報委員会の業務
- ・ 今後の活動方針

ウェブサイトの拡充、パンフレット改訂、それぞれの英語版作成について言及された。また、前回の評議員会で議論された「国民からの質問に対する回答」を行う点については、回答者の選定や責任の問題が有り、保留したいとのことであった。その他、年次大会などでのブース出展による PR や出前講義等の企画を行うこと、会員学会へのアンケートなどを行っていきたい旨の報告があった。

#### <主な質疑応答・コメント>

○伊佐先生

各学会にもっと周知する必要があるのではないか。生理学会年会ではセッションの一つとして脳科連の紹介を行った。今度の神経科学学会年会でもセッションを設けた。各学会の年会でもそういう場を設けてほしい。

○岡部先生

脳科連の活動がどのくらい知られているか未知数なところがある。神経科学学会の最終日の昼一時間くらいの枠をいただいてランチオンセミナーを開催予定。伊佐先生と私がオーガナイズしている。

○水澤先生 前回の評議員会では「国民からの質問に対する回答」について活発に議論されたと記憶している。ペンディングになってしまうのはもったいないこと。ぜひご意見いただきたい。何か質問が来たときに回答する程度のことでは可能なのでは？

○上田先生

回答者を決めるのが難しいのではないだろうか。

○本間先生

前回は特に臨床系の先生方から反対意見が多かった。本件は自分が睡眠学会の理事を辞したこともあり、完全にストップしてしまっている。ただ、こういった連合に対する国民の期待に応えなければいけない時が必ず来る。その方策のひとつとして、国民の脳科学に対する疑問にどう応えるか、きちんと議論していく必要がる。

○水澤先生

答えにくい質問やセンシティブな質問を恐れて、それだけを理由に質問全般に対応しない姿勢では何も進まない。中には学術的・素朴な疑問などもあるはず。ぜひそういったことに回答できるような体制を考えていただきたい。

## 6. 議決事項

### (1) 日本学術会議 3 分科会の合同シンポジウムの共催について

山脇評議員より資料 6 に基づき以下の通り提案があった。

- ・ 2010 年から 3 分科会合同のシンポジウムをやってきており、2013 年については脳科連キックオフシンポジウムとして開催したものを、今回 2015 年にも開催する。については脳科連の共催をお願いしたい。脳科連が共催することで脳科連のプレゼンスの向上に貢献したい。
- ・ 5 月中にテーマと演者を決めて学術会議事務局に提出する必要がある。これまでは医療の話に終始していた感があるが、「教育・医療・ものづくり」というテーマを考えている。学術会議のミッションは国民にわかりやすく発信するという事なのでマニアックなものは避ける。
- ・ 開催資金については脳科連に依頼することはない。

事務局から、主催・共催・協賛・後援についての内規を説明し、特段の異論なく了承された。

### (2) 2014 年監査及び決算について

事務局から決算の説明及び小泉監査委員より監査報告があり、承認された。

### (3) 2015 年予算案について

事務局より説明があり、原案のとおり承認された。水澤連合代表から下記の通り補足説明があった。

- ・ パンフレットについては、昨年リニューアルするという話があったが、すぐに使いたい場面があったためマイナーチェンジのみ行った。広報委員会が立ち上がったので引き続きリニューアルをお願いしたい。
- ・ 学会等での広報活動費というのは、7 月の日本神経科学学会での脳科連の活動 PR に関するセミナーのお弁当代にあてることを考えている。日本神経科学学会からも半分負担していただく予定。

## 7. 連絡事項

### (1) 脳科学辞典のご案内 柚崎先生

- ・ 脳科学辞典は INCF 日本ノードの下のひとつのプラットフォームとして始まったが、2015 年 2 月から脳科学辞典を神経科学学会で受け継ぎ、編集・運営していくことになった。認知度も高まりつつあり、アクセス数も伸びている。
- ・ 本辞典は基礎科学中心ではあるが、疾患についても関係しているので、もしお気づきの点があればお知らせいただきたい。法的に問題がありそうな内容は法律事務所に相談して掲載している。

### (2) 2015 年会費納入について

事務局より 2015 年分の納入を各会員学会に依頼した。

## 8. その他

### (1) 脳科学オリンピック (Brain Bee) について

平井評議員より、脳科学オリンピック (Brain Bee) に関する報告があった。

- ・ 2014年11月のサイエンスアゴラで予選を実施し、上位3名(高1生 1名、高2生 2名)を選出した。5月中に理研BSI、玉川大学等を訪問して講習を実施予定。
- ・ 6月中に3名から1名を選抜して、ケアンズで開催される本大会に派遣する予定。

### <主な質疑応答・コメント>

○水澤先生

今後、各学会においてもトレーニング等への協力をお願いしたい。

### (2) 健康医療戦略本部について

○岡野先生

松田先生からお話が出た健康医療戦略本部はAMEDの上層組織として意見集約される場である。永井先生ほか13名がメンバーに入っておられる。脳科連の中からは健康医療長寿センターの鳥羽先生が入っているのみ。基礎研究がきちんと考慮されるか懸念される。鳥羽先生にいろいろなお願いをすることも必要であるし、何か働きかけをする必要があるのではないか。

○松田先生

委員は決定してしまっているが、何らかの働きかけは必要。対策を考える必要あり。

○水澤先生

政党に働きかけをするということも必要。運営委員会議事録等には載せていないがそういう活動も行っている。

### (3) 昨年新たに入会した3学会の紹介

岡部先生より、昨年脳科連に入会した3学会に対して、脳科連の活動に対する抱負などをお知らせいただくように依頼があった。

○日本心理学会 佐藤先生

- ・ 日本心理学会は心理学の領域で一番大きい学会ではないが8,000名程度の会員数があり、会員のほとんどはアカデミックである。実験家がほとんどいないのがネック。
- ・ 学術会議の分科会是一部と二部で全くオーバーラップがないのが残念なところ。今度は3分科会が共催するというので、とても良い方向だと思う。今後もクロスオーバーが大事。日本心理学会は脳科学や認知科学との関係がかなり深いのでそういう方面で貢献できればと思っている。
- ・ 来年、国際心理学会(世界で一番大きい心理学系の学会)を横浜で開催する。神経科学学会と半分連携の形で開催する。お互いに乗りあう形で実施したい。
- ・ 公認心理士という国家資格の法案が2014年冬の国会で審議されていたが、衆議院が解散してしまっ

たため流れてしまった。ご意見があればいただきたいし、ご支援も賜りたい。文科省と厚労省との共同主管という形で進めている。

○日本ニューロリハビリテーション学会 近藤先生

- ・ まだ設立 5 年程度で会員数 500 名弱の学会。神経に関わるリハビリに係る研究全般をカバー。認知症のリハビリやロボティクスを推進していこうとしている。
- ・ 自分自身は健康長寿医療センター所属であり、理事長の鳥羽先生が内閣府の健康医療戦略本部の委員に入っているということを初めて知ったが、何か協力できることがあれば協力したい。

○日本神経免疫学会 (評議員全員が欠席だったため水澤先生が紹介)

- ・ おそらく会員数は 600～700 名程度。重症筋無力症や膠原病等、あらゆる神経系の免疫性疾患にかか  
る研究をカバーしている。
- ・ 学会そのものは 3 日間かけて非常に盛会で行われている。英語のジャーナルも出ていてアクティビ  
ティの高い学会。脳科連でも活躍が期待される学会。

以上